

(仮称) 宮前区「希望のシナリオ」実現プロジェクト

宮前区らしいしくみ「ラウンドテーブル」をお試し実施しよう！

ミーティング3：宮前区らしいソーシャルデザインセンターを考えよう

令和4（2022）年3月13日（日）13：30～16：30

第1部：お試しラウンドテーブルの振り返り

注釈

*SDC：ソーシャルデザインセンターの略

00:00:00 [音楽] タイトル画面

00:00:06

宮前区役所企画課 山田：

- ・改めまして、区役所企画課の山田と申します。
- ・私の方からは、お試しラウンドテーブルの振り返りをさせていただければと思います。
- ・今回、3つのラウンドテーブルを設定して試行実施させていただきました。
- ・最初、ある程度の流れを想定しながら始めたところですけど、始める前には思いもよらないことがたくさん出てきましたし、皆さんから都度様々なご意見もいただき、検証を進めることができたと思っております。
- ・様々なご協力いただきまして、本当にありがとうございました。
- ・関わっていないテーブルが何をやっていたか知らない方も多いと思いますので、まずはテーブル1、2、3と共有させていただければと思います。
- ・今回、ラウンドテーブルに関する課題についても様々な、ご意見をいただいたところでございます。
- ・ミーティングのゴールが不明瞭だったですとか、進め方が場当たりのだった、慌ただしかった、参加するラウンドテーブルは自由に選択したかったというお話、様々ないただいております。
- ・これらの点については、一つ一つしっかりと受け止めさせていただいて、今後に繋げていきたいと考えております。
- ・時間の関係で、課題の部分は後ほどの吉川さんの方からアンケート結果のご説明の部分に譲らせていただきまして、私の方からは見えてきた成果ですとか、可能性を中心にご説明をさせていただければと思います。

00:01:34

山田：

- ・まずテーブル1についてです。
- ・辻さん、浅野さんにプロジェクトオーナーになっていただいて、実施してまいりました。
- ・公園で、宮前まち倶楽部と花の台町内会が、公園清掃の後に実施するマルシェに、ラウンドテーブルメンバーも参加・協力させていただいて、ノウハウ等を共有するというテーマで実施してきたところでございます。
- ・まず12月5日がマルシェの当日だったんですけど、本番の前に準備としてミーティングを実施させていただきました。
- ・当日の具体的な準備ですとか、役割の確認、見るべき視点などについて確認をしました。
- ・辻さんからご提案をいただきまして、辻さんとラウンドテーブルメンバーでメールアドレスを交換して、当日の役割などについても直接やり取りをできるようにしました。
- ・マルシェ当日の写真でございますけど、ほんとに大盛況で宮前まち倶楽部や町会の皆さんの力を肌で感じたところであります。
- ・ラウンドテーブルメンバーもアンケートを取ったり、情報コーナーを担当するなどして運営を体験させていただきました。
- ・参加された方はいかがだったでしょうか。
- ・今回ラウンドテーブルを介して、一緒に参加させていただいたということが、プロジェクトオーナー、ラウンドテーブルメンバー双方にとってメリットがあったのではないかと思います。
- ・プロジェクトオーナーにとっては、当日のお手伝いや、客観的な目でイベントの状況を把握する人を得られたこと、ラウンドテーブルメンバーにとっては、実体験をすることで、資料を読んだり説明を聞くだけでは気づかない視点を得られたのではないかと感じました。
- ・その後、振り返りを実施しました。
- ・良かったこと 気になったこと 次回改善できることを出し合って、それをノウハウブックとしてまとめたところであります。
- ・また、今回のように、公園でイベントを実施する場合には、川崎市の許可を得る必要がありますが、何でも許可できるわけではありません。
- ・今回のような素晴らしい取組で公園をより積極的に活用していくための意見交換を行ったところでございます。

00:03:46

山田：

- ・成果についてでございますけど、まず、ラウンドテーブルメンバーが関わってくれることで、プロジェクトオーナーを支援することができたのではないかと考えております。
- ・また、今回の取組をきっかけに、「宮前区における物販を伴うイベント等に関する公園利用ガイドライン」を策定しました。そちら、参考資料にお付けしております。

- ・今回、区役所内でこの「希望のシナリオ」の取組を共有した時に、マルシェのために公園の使用は許可できないという話が道路公園センターからありまして、それが10月末の時点でしたので、11月3日が当日、一回目のミーティング1でしたので、プログラムを変えるわけにもいきませんし、12月5日に、マルシェは公園使用の許可が下りないと辻さん浅野さんに伝えなければならなかったらどうしようということで、事務局的にはかなり焦ったところでございます。
- ・その後、道路公園センターと話をしまして、今回については、町内会・自治会の支援ということで、地域振興課から、「後援」（後ろから応援する方の「後援」ですけど）、それを出すことで、おちば公園の使用を許可してもらえることになりました。
- ・ただ、許可のプロセス自体がすごく複雑ですし、当日、公園清掃に参加した方から、「この日は子どもがこんなに清掃に参加してくれたのはあまり見たことがない」、「子どもが清掃に参加してくれている」というお話もお伺いしまして、今回のおちば公園でのマルシェのようなイベントが公園の管理にもつながるのではないかとということも見えてきたところでございます。
- ・そのため、今回のようなイベントを促進できるように、振り返りのミーティングの際に皆さんからご意見をいただきまして、その後庁内で検討して、ガイドラインを策定したところでございます。
- ・これは、間違いなく、今回の皆さんの取組がなければできなかったことだと思っています。
- ・ある意味今回の取組が、区役所的には社会実験的な取組となって、内部の検討が進んだということもありますし、皆さんにとっては、ラウンドテーブルを通じて、公園の活用のプロセスが少しでも、見える化されたというところもあるのではと思います。
- ・これらのこともSDCの役割の検討に繋げていければと思っております。

00:06:14

山田：

- ・続いてテーブル2についてでございます。
- ・西村さんにプロジェクトオーナーになっていただいて、検討を進めました。
- ・シニアが気軽に立ち寄れる場（宮前区版道の駅？）をつくってみよう！ということで進めてきました。
- ・ミーティング2では、シニアが地域でいきいきと楽しむためのアイデアを出し合いました。
- ・地域資源を掛け合わせて、できそうなこと、やってみたいことを出し合いました。
- ・結果としては、参考資料に詳しくはお付けしておりますが、皆さんからのアイデアと資源を整理したところでございます。

00:06:50

山田：

- ・テーブル2の成果についてでございますけど、テーブル2はテーブル1、3に比べて、形になったものがないので、一番成果がわかりづらいテーブルではあったと思います。
- ・形にしていこうためには、ラウンドテーブルの進め方、頻度なども含めて、今後の検討に繋げていく必要があると考えています。
- ・一方で、テーブル1、3と比べて、テーブル2は、0を1にしていこうという段階の議論ができたからこそ得られたものもあると考えています。

- ・地域の資源ってこんなにあるんだということを一番感じたのがこのテーブルだったのではないかなと思います。
- ・また、課題解決のアイデア自体について、議論を通して進めることができたと考えています。
- ・もともとは、「道の駅」という定常的な場所をイメージされていた西村さんが、皆さんからの意見を聞いて、シニアにとっては、集まりやすいようにそれぞれにとって身近な場所でやるのが大事なのではないかですとか、移動図書館のように様々なところで決まった曜日、時間でまわっていくのがいいのではないかといった形で考えが深めることができたのではないかと思います。
- ・実現までは至らなかったのですが、よいアイデアが本当にたくさん出たので、もしよろしければ今後も皆さんと一緒に、一つでも二つでも形にしていけないかと考えております。

00:08:05

山田：

- ・最後にテーブル3についてです。コジマさん、アクロスソリューションさん、区役所から森山さんにプロジェクトオーナーになっていただいて、検討を進めてきました。
- ・ミーティング2では、第2回コジマルシェの可能性の検討を進めました。また、民間企業側、出店者側がそれぞれの考え方を共有しました。
- ・また、区役所としては、ずっと地域と民間の間に入り続けることは難しいこと、地域と民間の関係構築のために、直接の連絡のやり取りをお願いしたところです。
- ・ラウンドテーブルの中で、3月19～21日のコジマルシェ開催が決まりました。
- ・来週実施予定ですので、皆様ぜひ足を運んでいただければと思います。11時～17時までやっております。
- ・また、コジマさんとしてクロス販売ができるともっといいというアイデアも出てきました。
- ・クロス販売というのは、例えば外でマルシェとして手芸品を販売しているのであれば、店舗でのミシンの販売と関連したポップを置いてみるですとか、野菜の販売をするのであれば、ミキサー、ジューサーなどと関連させるといったことです。
- ・地域側としては、場所をただ借りるのは大丈夫かな、お金払わなくていいのかな、というところがスタートだだと思いますけれども、コジマさんとしては、地域の中の店舗としていきたいですとか、テントも借りることができたのですが、テントもどんどん使ってくださいというお話でした。
- ・地域の側としても、1回目はコジマの店員さんが設営含めかなりやってくれたところではありますけど、テントを用意してくれるだけでかなり助かるので、設営は地域でやりますと言った形で、お互いの理解を深めることができたのではないかと思います。
- ・そこがすごく重要だったのではないかと思います。
- ・地域活動にとって活動場所の確保は大きな課題かと思いますが、場所を持っている民間企業が気にするところにしっかりと配慮する、メリットに寄り添ってあげることができれば、地域で活用できる場は増えていくのではないかと感じました。
- ・また、区役所にポスターを貼りたいというお話もありましたので、ラウンドテーブルに関する取組ということで、企画課から後援を出す形で、区役所内でのポスター掲示及びチラシの配架を行いました。

00:10:15

山田：

- ・成果についてでございますけど、ラウンドテーブルというある意味、中立的な場を通じて、民間企業と地域の相互理解が進んだのではないかと考えています。
 - ・また、民間企業が保有する場を地域で活用できることになりました。
 - ・ちょっと余談にはなるんですけど、例えば、以前に私が聞いた事例としては、薬局のクリエイトの駐車場を地域包括支援センターがシニアのための体操などに使っているという事例がありました。
 - ・今回、コジマさんについては、繁忙期を避けた営業時間内という形になっていますが、クリエイトさんの場合は開店時間前の駐車場を使うという形になっていました。
 - ・クリエイトさんは、営業時間内の駐車場は危ないし、開店時間前であれば、来た人が開店後にそのまま買い物をしていってくれるといったメリットもあるのかな、と思います。
 - ・場所を持っている企業ごとに事情が異なるので、一つ一つ丁寧に聞いていくと、可能性はもっと広がっていくのかな、と感じています。
-
- ・また、今回ポスター、チラシを先程も言った通り、区役所に置くことになりました。
 - ・ラウンドテーブルという機会がなければ、コジマルシェのチラシを区役所に置くことはなかなか難しいのかなと思ってまして、今回は地域活動の支援として場所の提供を促進するという形で区役所という場も有効活用できたのではないかと考えています。
-
- ・最後、ちょっと蛇足になりますけど、今回テーブル3については、公共性や中立性といったことが重要なのかなと感じました。
 - ・もともと、コジマルシェ自体が、森山さんのところにアクロスソリューションさんから連絡が来たところから始まっているんですけど、なぜ、アクロスソリューションさんが面識のない地域振興課に電話をかけてきたのかという点だと思っています。
 - ・そこには企業側は公共性を大事にするという事情があるかな、と思っています。ただ、テーブル3のキーワード、1回目に話題になったのを覚えていますでしょうか。
 - ・「たまたま森山」というワードがキーワードになっていたかと思いますけど。
 - ・アクロスソリューションさんからの電話を、森山さん以外の方が受けていたら、コジマルシェは影も形もなかったかもしれないと思います。
 - ・また、森山さん自体も地域とつながっているだけで、マルシェ自体を運営できることは行政でできませんので、そこはやはり地域の力が重要となっております。
 - ・今回はたまたま、公共と地域がすごくいい形でコラボレーションできたのかな、と思っていますけど、そういう意味でもたまたま良い形になっただけで、アクロスソリューションさんが大事にしていることは公共性ですとか、中立性といったところを、うまくこういった場を使いながら、担保したもので、運営していけると、良い形になっていくかなと思っています。
 - ・それも含めてラウンドテーブルですとか、それも含めたソーシャルデザインセンターの可能性が見えてきたのかな、と思います。私の方からは以上になります。

00:13:15

株式会社石塚計画デザイン事務所 千葉：

- ・はい、山田さんありがとうございます。
- ・3つのラウンドテーブルを実施して、既存のイベントをみんなで手伝っていく。
- ・そして、ノウハウを蓄積していくってことも、公共施設の使い方、ガイドラインが策定されるということにつながったというのは、すごい成果だな、とも思いました。
- ・ラウンドテーブル2の方では、形としての何かが実施できたわけではないけど、投げかけた課題についてみんなでアイデアを出しあっていく。
- ・これは、きっとこのラウンドテーブルが続いていくと、「これをこういう方法でやってみよう」みたいなことに繋がっていくこともあるのではないかと思います。
- ・そして、企業さんとの連携ということで、新しいルートと言うんですかね、こういうルートを作っていけば、実績が作れるという形、これも、ラウンドテーブルの中で実施できたのはすごい成果だと思います。